

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第12回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成29年度地域活動支援事業の完了について（公開）

(2) 金谷区の地域団体との意見交換について(公開)

(3) 金谷区の地域課題について（今後の進め方）（公開）

3 開催日時

平成30年3月28日（水） 午後6時00分から午後7時35分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、伊崎博幸、
石野伸二、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、
永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【小林主事】

・伊藤委員、牛木委員を除く14名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：齋藤委員、竹内委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3報告（1）平成29年度地域活動支援事業の完了について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「平成29年度地域活動支援事業の完了について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

一次第4議題（1）金谷区の地域団体との意見交換について—

【高宮会長】

次第4議題（1）「金谷区の地域団体との意見交換について」に入る。

前回会議で、資料No.2のとおり取り上げたい委員の数が多いためから順番に取り上げることが決まったことから、まずは「9. 他団体や他地区との連携」を取り上げる。

各委員から出された意見をもとに正副会長で協議した結果、平成30年度は、出張地域協議会のほか、金谷区の地域団体と地域活性化についての意見交換を行ったかどうかと考えた。

まず、出張地域協議会の開催について伺う。資料No.3の出張地域協議会の開催案

について、質疑を求める。

地域協議会はどういうものかよく分からないという意見も出ているようなことが新聞等で報道されている。そのようなことから、出張地域協議会は大いにやるべきかと思うが、いかがか。

【石野委員】

よいと思う。

【永野委員】

ぜひお願いする。

【高宮会長】

(2) 実施内容については、金谷区の北部・中部・南部で出張地域協議会を開催すれば、様々な意見が出てよいと思うが、このように分けることでよいか。

【吉村委員】

偏った意見を聞いてもしょうがない。あちこちから様々な意見を聞きたいため、よいと思う。

【高宮会長】

(3) 開催日時・会場については、相手の都合等があるため、正副会長で検討し、会場を借りる各町内会長に連絡を取っていきたいが、それでよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

(4) 地域住民への周知については、前回と同様、各ブロックの委員が分担して各町内会へのチラシ回覧や呼びかけ等を行う。皆さんに協力いただきたいが、これでよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

続いて、金谷区の地域団体との意見交換について、金谷区の地域活性化をテーマにして、どのような団体と意見交換を行うのがよいか協議したい。なお、具体的にどの団体と意見交換を行うかは、相手のあることでもあり、ここで決めかねるので後日正副会長で調整したい。このことについて、質疑を求める。

【石野委員】

金谷地区町内会長連絡協議会は正式名称か。

【高宮会長】

金谷地区町内会長会である。

【吉村委員】

金谷地区振興協議会や金谷地区町内会長会といった地域を総括する団体は、役員の方のほとんどが地域協議会委員と重複している。この団体はあまり意味がないのではないか。逆に、暮らしをサポートする団体の方が具体的な様々な課題が出てくるような気がする。こちらの方とした方がよい。

【高宮会長】

代表の方のみにするか。あるいは、金谷地区振興協議会には代議員がいるが、人数が多いと会場の問題もある。

【吉村委員】

それもある。

【高宮会長】

会長だけではなく、代議員の意見を聞くというのも。

【吉村委員】

その方が色々網羅できるだろう。

【石野委員】

金谷区には28町内あるが、代議員や副町内会長などの方が入れば、違った意見が出るのではないか。

【伊崎委員】

偏った意見かもしれないが、若者寄りの意見として。私の知人にこのような出張協議会や市の会議に出て情報収集してみようと声をかけるが、大体の意見が「おじさんたちばかりだろう」という感じで、行っても自分の意見が言えなかったりする。例えば40歳以下限定、女性限定など、性別や年齢を区切るのはどうか。町内会ごとに青年部や女性委員のようなくくりもあるため、そこに声をかけていくのもひとつの案。

【村田副会長】

1つの団体だけに絞って話し合いをする方法もあるが、このような団体が一堂に会して集まるという方法がある。全部の団体を集めて皆でディスカッションしても

らい、私たちに投げかけられるような課題はあるかを聞く。会場は広い場所にし、6～7つのグループを作り、そこで意見集約し、発表。その場合1回で済むため、何回も分けるよりはよい。

全部の団体に声をかけ、来てもらえる方を決め、そこでグループごとに意見を聞けるようなことができるかどうか。

【吉村委員】

そうすると、ポイントがぼけて支離滅裂な会議になってしまう気がする。例えば、消防団金谷分団などの若い人たちからは、「慢性的な人材不足。幽霊会員みたいな人ばかりでどうにもならない。動きがとれない。」という話を聞く。では、どう取り組んだらよいだらうという話になる。あるいは民生委員や児童委員といった人たちの話を聞けば、現場の声から具体的な問題が見えたりするのではないか。話を聞いてみたい団体を、3～4団体くらいピックアップする方がよいのではないか。

【伊崎委員】

村田副会長の提案はよいと思った。しかし、それだと吉村委員のとおり出てくる意見がチグハグになると思う。例えば、資料No.2に今まで協議してきたテーマがあるが、その中から今回はこのテーマについて話すという形で各団体に通知を出し、それに興味がある団体から来てもらえばよい。例えば、「観光」や「移住、人口対策」であればヒットする団体も多いと思う。

【石野委員】

今聞かれているのは、どういう団体をターゲットにするかということか。

【高宮会長】

そのとおり。

【石野委員】

であれば、暮らしをサポートする団体の中で、地域全体と関わっている団体。例えば、正善寺バス利用促進協議会は正善寺路線だけになる。また、各町内会は除く。それ以外で、地域全体を網羅しているような団体に声をかけた方がよい。案内を出しても来ないような団体は仕方がない。

【山口委員】

消防団なら、全町内に関わっている。若い世代が多いため、地域での苦労話もあるだろうし、後継者の問題もあるだろう。聞いてためになるのではないか。

【村田副会長】

話をしてみたい、聞いてみたい団体のリストアップを今ここで行う。例えば、若い人で消防団がよいとか、老人クラブは若くないため話は聞きたくないとなるのか。皆さんの総意でそうなればよいが、でも先人の声は聞かないといけないという話になるかもしれない。こういう団体がよいと、リストアップしてみてはどうか。

【石野委員】

食生活改善推進委員や運動普及推進協議会はほとんど毎月活動している。年1、2回の活動の団体ではなく、そういうところほどのような課題があるか拾っていけばよい。消防団はほとんど毎月している。老人クラブの場合は、ゲートボールなど。老人会をやめる地区もある。

【齋藤委員】

各地域団体のピックアップについては、他に出てくる団体もあり増えると思うが、相手団体からこちらに来てもらうより、我々が出かけていくのはどうか。例えばこの16人を、会長、副会長で3人いるため3つくらいに分け、住民の暮らしをサポートする団体の会合にお邪魔し、皆さんの普段の話、ご苦労を少しでも感じ取りたいと思ってきたと。全員で行くとなると相手もあれだし、相手からこちらに来てもらった時も大した話はできなかった。一つの提案として、会長、副会長それぞれをトップにして小グループに分け、それぞれ分担して会合等に出かけて行って話を聞く。大変だが。

【川住副会長】

出張していき、他団体の人をたくさん集めるとの話だったが、どのくらいの団体を集めるか分からないが、かなり大がかりになる。今までは、それぞれの町内に行き、近くの人たちが集まって出張協議会をしてきた。だが、今度は他団体の代表だけを集めるのか、大勢の人を集めるのか。現実的にはすごく難しい。対応できるか。消防団やその他いろいろ集め、大がかりな出張をできる場所があるのかどうか。何人くらい集めてどのようにするか。

【吉村委員】

恐らく会議にならない。人数が多いし、話題が多い。「他団体や他地区との連携」という題にもなっているが、私たちは「困っていることないか。知恵を貸すので話を聞かせて下さい」という立場で出る。「集まって来なさい。私たちが話を聞いてあげる。」というスタンスではまずい。各団体のうち、めぼしいところ、興味のあるところへ伺いを立て、ひとつずつ話を聞かせてもらうのが筋ではないか。

【齋藤委員】

吉村委員の意見は、私の意見とは違うということか。基本的に地域協議会委員全員で行くということか。

【吉村委員】

そのとおり。

【齋藤委員】

それだと「聞いてやる」ということになり、地域協議会で考えた趣旨、目的が達成できないのではないか。大勢で行くと相手が構えてしまう。こちらからは3、4人で行き、相手の方が大勢なら話がしやすいのではないか。

【川住副会長】

今まで地域協議会を分けて開催したことはない。そういう形態ができるかどうか、確認した方がよい。全員がそろって皆さんの意見を聞くのが地域協議会だと思う。3つや4つに分かれて出張して話を聞くことが現実的にできるのかどうか、事務局に聞かないと分からない。

【榎島係長】

地域協議会は委員の半数以上の出席が必要だが、意見交換会という位置付けであるため、3分の1ずつでの開催は可能である。分科会の設置といった取組も他の区ではあるが、それとは違う。意見交換会を少人数に分けて実施することは可能。

【石野委員】

意見交換会では、課題や要望をこちらから問いかけ、それに対して答えを求めるといった形が普通。そうすると、各団体に対して、現状からこのような課題や要望があると出してもらい、それを見てどうするかを。我々がタッチできないこともある

だろう。そのような案内やアンケートを出し、「何も問題ない」と書いてくるかもしれないし、「非常に困っている」というのもあるだろう。そこからターゲットをしぼっていく方法もある。

【桑山委員】

地域協議会としてテーマを2つ、3つ決め、それに対して各団体に呼びかければ、目的は達成できる。何のための集会なのか、目的をはっきりしないと難しい。色々な意見が出てくると思う。例えば、安全・安心なまちづくりのためにはどうしたらよいかなど、テーマを決めていかないと、結局バラバラになってしまう。その上で呼びかけて参加した団体の意見を集約した方が仕事は早い。テーマがはっきりしないと進まない。

【高橋委員】

市から委託されている団体は、市の方針で運営されているため、意見交換しても無駄な気がする。市との契約でどのような仕事をするか、というだけ。そのような団体はいくつかあるが、何か新しいことをするとはならないだろう。

子ども会だが、うちの町内の子ども会は、前から引き継がれていることだけで、「何かして下さい」と言っても、「それは無理だ」で終わってしまう。

自主的に活動している団体は、色々意見交換できると思う。その辺を抜粋する。

【高宮会長】

市が委託している団体は分かるか。

【石野委員】

運動普及推進員協議会と、食生活改善推進委員。体育協会は分からない。

【川住副会長】

民生委員・児童委員も。

【高橋委員】

町内会はどちらとも言えない。個人的な町内会もあれば、法人的な町内会もある。交通安全協会の各支部は自主的だと思う。民生委員・児童委員は町内会で推薦するが、仕事内容は市からの内容。運動普及推進員協議会も同じ。市と連携している。防犯協会は自主的にしている。食生活改善推進委員も市と連携している。金谷地区

体育協会は独自で自主的にしている。金谷地区老人クラブ連絡協議会は、協議会の方は市と連携しているかもしれないが、各町内会としてはあってもなくてもよい団体だと思う。上越市消防団金谷分団は、市と連携している活動内容だと思う。正善寺バス利用促進協議会は自主的な活動だと思う。

こうして見ると、独自なのは半分くらい。地域協議会と連携して意見交換するのであれば、自主的に活動している団体と行い、共有の悩み事や、どんな目標を立てているかが分かる。そのような団体を抜粋した方がよい。

【高宮会長】

他に市に関わる団体はないか。

【村田副会長】

正善寺工房や南葉高原は。

【高橋委員】

南葉高原キャンプ場管理運営協議会は、市から委託されている。

【高宮会長】

正善寺工房もそう。

【川住副会長】

リフレ上越山里振興株式会社も。

【高宮会長】

金谷観光協会はどうか。

【高橋委員】

金谷観光協会は独自。

観光については、私もパンフレットを作るなど色々行ったが、この団体からの協力はなかった。どんな活動をしているか聞いたが、金谷山に登る途中にある看板の管理をしているとのこと。本当の観光協会ではない。

【高宮会長】

地域活動支援事業の提案団体はどうか。

【石野委員】

この団体とは色々連携している。

【高橋委員】

リフレ上越山里振興株式会社は無理ではないか。これは会社組織になっている。

【川住副会長】

他は全て任意団体では。

青少年健全育成協議会など、子ども関係は。

【高宮会長】

学校運営協議会も、市から。

【石野委員】

市の方針で動いていない。その学校独自。

【高宮会長】

青少年健全育成協議会もそう。

【高橋委員】

学校関係では、PTAは教育委員会から学校へ来て、学校で作っている仲間。学校運営協議会もそう。「こんなものいらない」という人も最近多い。「学校の先生の労働時間が長くなる」、「無駄なことをしている」と。青少年健全育成協議会もその関係。

子ども会は各町内にあると思うが、毎年会長が変わり、1年の予定をこなしていけば、他のことはしたくないというのが現状だと思う。

【西条委員】

子どもが少ないため行事をやめようと。

【高橋委員】

スポーツチームは色々あると思うが、私は分からない。

【石野委員】

スポーツチームは、地域活動支援事業の提案団体に含まれる。

【高宮会長】

市から委託されているところを抹消したが、この中でどうか。

【高橋委員】

私は意見を言っただけ。言ったとおりにしなくてもよい。

【吉村委員】

市の委託というのはあまり関係ない。話を聞かせてもらうのであり、困っていることを私たちが代わりに市に伝えるのではない。金谷地区はこうで、こんなことで困っているという話を聞かせてもらえれば十分。私たちの動く種になる。市の委託で動いていても関係ない。向いている方向が違う。そのような人たちの話を聞くことが連携になる。

【土屋委員】

例えば、私が何かの団体をしていたら、話をしたくて仕様がな。今度、高田のことで団体の話を聞きたいため話をしてほしいと言われたら、話しに行く。ただ、金谷区地域協議会としての意見交換会であれば、金谷区と関係のない話を聞かされたら、「今日の意見交換会は何だったのだろう」となりかねない。「金谷区地域協議会はこのような団体で、このようなことを目指しており、金谷区のことについて意見を聞きたい」と伝え、「うちの団体は金谷区のためにこのように貢献したいため、話を聞いてもらえないか」という方たちがいれば、聞いてあげるのが一つの姿勢。市がどうこうより、どのような団体が金谷区のために頑張っているのかを知ることが大事。

【竹内委員】

施設関係の運営をしている団体が4つあるとのこと。観光などで連携ができないかという意味で共通しているのであれば、その4団体で連携して何かできないかと集まってもらうことが可能。それぞれ経営が違うため、何かテーマを投げかけないと、「私たちはこれをしている」という話になり、何のためにしているのか分からなくなる。テーマさえ決まれば、4団体で何とかならないか、それぞれ話を聞く。「ちょっと無理だ」となればそれでもよい。何か投げかける材料になればよい。

住民の暮らしをサポートする団体については、地域協議会委員のうち町内会長が十数人もいれば、ほとんど何かに関係している。例えば、私の妻は民生委員・児童委員、食生活改善推進委員、運動普及推進委員を務めているが、自宅でいつも苦情を聞いている。ここに来て話す必要はない。そのように、団体の役員を5、6年していれば、ほとんどで何か関係を持っている。正善寺バス利用促進協議会も、何回

も行ってイノシシを食べたりしてきた。何を悩んでいるか、どのように観光に結び付けられると思っているか、私でも代弁できる。

どのような形で皆さんに聞くかある程度決め、団体から話を聞き、どうするか考えるのがよい。

【高宮会長】

ある程度方向性を決めてもらえば、三役でどのような内容にするか決められる。

【永野委員】

皆さんの意見はそれぞれよいことだが、我々はただ漠然と聞くだけでは物足りない。こちらである程度テーマを決めた上で投げかけた方がよりよいのではないか。

【高宮会長】

例えばこのテーマというのはあるか。

【永野委員】

それは皆で話し合っただけで決めたらよい。

【土屋委員】

ある町内の高齢化率が32%で、これは上越の平均よりも少し高い。若い人が多く住んでいると思っていたが、思った以上に高齢化率が高い。このように数字を示してもらえるとテーマを決めやすいし、このような課題があると示しやすい。

【伊崎委員】

今まで会議を重ねた中で、資料No.2のとおり皆さん重要だと思う項目が出てきた。

各団体も他の団体とのつながりを持ちたいと思っているのではないか。テーマを絞るのであれば、他の団体との交流、異業種交流のようなものをする声かければ、他との連携に興味がある団体が来てくれると思う。地域協議会ではこのような課題が金谷区では重要だと考えたということで、今回は「他団体や他地区との連携」というテーマで、各団体の自己紹介、発表などをする。資料No.2にあるテーマごとに会を開くのはどうか。

【石野委員】

中には、金谷区で活動をさらに推進したくても、人がいないためしたくないという団体もあるだろう。現状の課題ないし要望的なものを一旦提出してもらい、それ

から判断したらどうか。

【吉村委員】

全部の団体でも、絞ってもよいが、地域協議会の名前で、「こう考えており連携会議をしたい」という書面を出す。その時に、どのような話を聞いてほしいか、どういう点が問題か、先方から出してもらった方が、こちらから議題を示すより話を多く聞ける。まずこちらから案内文を出し、それから課題・議題になるものを相手から提案してもらえば。色々な話を聞かせてもらいたい旨の書面を出す。そこで、参加できない団体であれば、「うちは結構」と返事が返ってくる。

【土屋委員】

団体の長をしている人は、話したくて仕様がなない。そのため、このような場があるとされたら、来たくて仕様がなないと思う人もいる。来たくない人を呼ぶのではなく、来たい人が来て話を聞くとするか、それともある程度線引きをするか。話を聞かされて終わるのが心配。例えば健康のグループがあるとして、健康運動の話を一生懸命して終わりとなれば、これは意見交換だったのかと。

【高宮会長】

決めるべきことについては、後日正副会長で調整することでよいか諮り、委員全員の上承を得る。

— 次第4 議題（2）金谷区の地域課題について（今後の進め方） —

【高宮会長】

次第4 議題（2）「金谷区の地域課題について（今後の進め方）」に入る。

前回会議では、協議の結果、資料No.2のとおり、取り上げたい委員の数が多いいテーマから順番に取り上げることが決まった。この進め方を協議したい。

【石野委員】

「9. 他団体や他地区との連携」から取り上げ、方法は三役にお任せとなった。その結果を見た後に決めたらどうか。まず一つ目を。

【吉村委員】

全部漠然として、全部ぼやけてしまう。少しずつ潰していかないと。

【石野委員】

1 番目も、どのくらい時間がかかるか分からない。

【齋藤委員】

地域課題について、皆さんで知恵を絞り、資料No.2 のとおり分けた。

平成30年度は3年目、後半の2年間に入る。過去2年間もこんなことをしてきたと思うが、ここまで来たということで、少しでも実りのある形で1年間通して消化していくとよい。上手くいけば、意見書を提出できるよう進めて行きたい。

せっかく決めたのだから、順番はこのまま。1年間しっかり実りあるものにしていくという決意で進めてほしい。

【高宮会長】

金谷地区振興協議会で上越市に上げた要望事項の回答が市からあった。その中には、「10. 雨水排水」、「8. 携帯電話の電波」、「11. 不法投棄」、「6. 山間地農業」、イノシシが出るという問題などがあった。進んでいる部分もあるが、相手のあることであり、明日からよくなるものではない。金谷地区振興協議会等が中心になり、市役所に要望事項を出している。

どのようなことに悩んでいるか、問題点があるか、地域の方から聞き、我々もどうしようか考え、金谷地区振興協議会と協議しながら自主審議し、市に進言する、あるいは地域の中でできれば、というように進めるのがよい。上から順番ではなく、要望を見て決めるのがよいと思う。

【吉村委員】

そう思う。

【高宮会長】

ある程度テーマを絞り込んでいくには、地域からの要望が出てこない、「これについて話しをしよう」とはなかなかできない。絞ることによって、必然的に参加者が決まってくる。

資料No.2の順番に関わらず問題点を取り上げて行くことでよいか。

【川住副会長】

前回は資料No.2の順番でしていくと決めた。

【石野委員】

とりあえず「9. 他団体や他地域との連携」に進んだが、その後は状況を見て。

【高宮会長】

とりあえず各団体から話を聞き、その意見を見て次に進む。

【石野委員】

「9. 他団体や他地域との連携」が全て完結してから「10. 雨水排水」に進むのではない。まず1発目の反響を見て、次をどうするか。

【吉村委員】

まだ動き出していない。どう動こうかの話し合いではないか。

【村田副会長】

基本的な順番は決めた。それはきちんとしておかないと。どうしてもよいということではない。

【高宮会長】

もう一度確認する。色々な団体等に問題点、意見を聞いて集め、それを見ながら次の段階に入っていくことでよいか。次は「10. 雨水排水」だが、そのような問題が出てくるかどうかもある。

このとおりに進めてよいか諮り、委員全員の了承を得る。

自主審議をまとめていくには少し時間がかかるかもしれないが、残り2年の中でまとめていきたい。

【竹内委員】

先日、三郷区で団体を作ったことが新聞に載っていた。その前には、諏訪区でも何か立ち上げるという話があった。小さい区では、今回はPTA、次は何かと、10年くらいで役職が回っているという話を聞いた。「俺がやるしかない」という気持ちで皆取り組んでおり、立派だと思いながら、新聞を読んだ。

金谷区は大きい地域であるため、市への要望は簡単だが、自分たちで解決する問題となると、責任者選びで非常に苦勞する。「いきいきサロン」でも、誰に講師を頼むかが大変だと思う。この地域では、受けてくれる組織がなかなかない。地域協議

会委員の中でも人任せになってしまう。三役に代わってするのも難しい。大きいところには大きいところの悩みがある。

【高宮会長】

金谷地区振興協議会などの協議会は、他のエリアよりも金谷地区は進んでいる。中心になってくれる方がいる。他の区ではそれがなかったため、そのような会ができてきているのだと思う。春日区では、地域協議会委員をグループに分け、安全箇所の点検で回っているのが新聞に出ていた。地域協議会委員を小グループに分けて地域を見守りながら、問題点を探し出している。飯地区、灰塚地区の防犯協会や交通安全協会的な組織があるのかどうか分からないが、金谷地区にはほとんどある。地域で差がある。

川住副会長から、意見を聞くにしても団体を絞った方がよいと話があった。全部に聞くのは広すぎることから、例えば住民の暮らしをサポートする団体のうち上越交通安全協会飯支部、灰塚支部に問題点を投げかけ、意見を集約する方がやりやすいという意見が出たが、どうか。北部、中部、南部と、これだけ広い範囲を一つにまとめていくのは難しい。

【齋藤委員】

これだけの数を全てというわけにもいかない。高橋委員から意見のあった市が委託している団体、あるいは町内会長が関係している団体は外す。例えば防犯協会や、消防団金谷分団では、関係する町内会長が加わり、色々な総会や協議会等で話をし、意見を言っている。そこへ地域協議会として意見を聞きたいと行っても、話をまとめられるか疑問。町内会や、町内会長と関係していない団体をピックアップする。分かれてもよいし、来てもらってもよい。「9. 他団体や他地区との連携」をまず取り組む。

【高宮会長】

どの団体がよいか。

【齋藤委員】

町内会長や市が関係している団体は外し、残った団体で検討すればよい。

例えば金谷観光協会は、私にも総会の案内は来るが、1、2回参加しただけ。この

団体も町内会長が関係しているため、どうかと思う。観光協会の悩みを地域協議会が請け負う形になり、我々にとっても負担になる。地域活動支援事業の提案団体でもよい。地域活動支援事業に応募してくる団体も多い。実績報告書は一通り見るが、実際の生の話はどうか聞きたい。各団体が活性化すれば、金谷の地域も活性化する。自分たちで動いている、活動的な団体がよいが、本来は活動が停滞気味の団体を地域協議会でサポート、元気付けるのが趣旨だと思う。静かになっている、なかなか動きのない団体があれば、そのような人たちに来てもらえたらよい。我々の役割が報われる、発揮できるような団体があればよい。

【高宮会長】

地域活動支援事業の提案団体の中で、例えばどの団体がよいか。

【齋藤委員】

どこでもよい。

【石野委員】

地域活動支援事業の提案団体は、予算がもっと欲しいというのがメイン。

私は、住民の暮らしをサポートする団体。まずどんな課題があるか。それが地域協議会として箸にも棒にもかからなければ受け入れられない。聞き取りや検討会をするということではないと思う。まずは課題等を集め、そこから線引きしていく。

【高宮会長】

例えば、住民の暮らしをサポートする団体で、これというのはあるか。

【石野委員】

町内会は外す。

例えば、消防団から年間の活動費をもっと欲しいと言われても、我々ではどうしようもない。どんな課題が出てくるか分からない段階。それには、今後金谷区でもっと活動しやすく、拡大することに対しての課題や要望はあるか聞くのがよい。

【川住副会長】

趣味・サークルの団体までは難しい。住民の暮らしをサポートする団体の中から選び、アンケートを出すのはどうか。他もといったらまとめきれない。

【吉村委員】

私も闇雲に出すのはよくないと思うため、住民の暮らしをサポートする団体の中から、町内会を外した9団体。そのうち、正善寺バス利用促進協議会は金谷地区振興協議会と重複していないか。

【齋藤委員】

重複していない。

【川住副会長】

意見を聞く必要はあるか。

【齋藤委員】

町内会長や副会長がしている。同じような話になる。

【石野委員】

じゃあ最初と最後を削って。

【吉村委員】

この8団体であれば、違った話が聞けるのではないか。

【川住副会長】

8団体なら、意見を聞いても集約できる。

【高宮会長】

対象は、住民の暮らしをサポートする団体のうち、各町内会と正善寺バス利用促進協議会を除いた8団体でよいか諮り、委員全員の了承を得る。

【高橋委員】

団体の数が足りない。例えば、「10. 雨水排水」の関係団体がない。金谷町内会から北の方はほとんど田んぼがない。雨水で問題になるのは、北の方では、住宅が冠水したり、下水道があふれたり、道路が冠水したりといったことが多い。南の方では、田んぼや畑に水が入って収穫が少なくなる。それぞれ係が違う。そうになると、それについてはどの団体に話すのか。この辺りには農家組合がない。

【川住副会長】

「雨水排水」で上がっているのは、3町内か。

【石野委員】

黒田、青木、灰塚。

【川住副会長】

これは青木が中心になっている。この前見学に行ってきた。

【高橋委員】

南部は田んぼのことで、農林水産関係の話。北部は道路の冠水で、生活排水関係。行政が違う。「雨水排水」の問題となると、両方を加味しないと。町内会長を外すと、話す相手がいなくなる。例えば、山口委員の町内会では、住宅地が冠水することは問題になっているか。

【山口委員】

農道が問題。農水の方。

【高橋委員】

永野委員の上中田町内会は、生活排水の話か。

【永野委員】

そのとおり。

【高橋委員】

一口に排水問題といっても、なかなか難しい。こちらの方は町内会長と、あちらの方は町内会長の他に農家組合の方も必要。農家についてはよく分からないが。

【石野委員】

雨水の関係は、中部地区も合わせて、特定せずに集約したと思う。

【高橋委員】

金谷地区振興協議会では、両方について出している。

【高宮会長】

町内会は入れた方がよい。

【川住副会長】

町内会を入れてもよいが、特定の町内だけになる。

【高宮会長】

今回は、北部の町内会に出せばよい。

【村田副会長】

28の町内のうち、出さない町内があるのはまずい。

【石野委員】

雨水に関して課題が上がっているがどうかという問いかけであれば、特定されない。全体に課題はないかという場合は、えこひいきになってしまう。

【村田副会長】

雨水に絞って話をするわけではない。28町内にするのが大儀。

【石野委員】

上がってきた課題を全部取り上げるわけではない。

【村田副会長】

公正でなければ、「いかななものか」と言われる。

【高宮会長】

では町内会も入れるか。

【村田副会長】

間口は広くなる。

【高橋委員】

そうすると、会議をする場所がなくなる。

【石野委員】

最初にアンケートを取る。会議はその後の話。

【村田副会長】

意見を出した団体と打ち合わせをするようになる。「特に問題はない」と出した団体は、来てもらわなくてよい。ある程度絞られる。

【高宮会長】

今回は各町内会へも案内を出すことでよいか。

【齋藤委員】

せっかく絞ったものを元の状態に戻すと、どこから手を付けてよいか分からなくなる。過去もずっとそういう形で来ている。3年目はそうなりたくない。公平と言っていると何一つできない。

【高宮会長】

各町内会にも案内を出すことについて決を採ってよいか。

【山口委員】

先ほど、住民の暮らしをサポートする団体のうち、各町内会と正善寺バス利用促進協議会を除いた8団体にする決めた。そうしないと、間口がものすごく広がる。

【高宮会長】

平等性という意見が出たため、改めて決を採る。

住民の暮らしをサポートする団体のうち、各町内会と正善寺バス利用促進協議会を除く8団体に案内を出すことについて採決し、全員賛成により可決。

本日出された意見をもとに三役中心で決め、次回の会議で報告することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

—次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

・今後の日程

平成30年度

第1回地域協議会：4月25日（水）午後6時～ 福祉交流プラザ 第1会議室

第2回地域協議会：5月16日（水） 福祉交流プラザ 第1会議室

地域活動支援事業 全体討議、基本審査、優先採択審査

第3回地域協議会：5月24日（木） 福祉交流プラザ 第1会議室

地域活動支援事業 プレゼンテーション、共通審査、採択

*提案件数により日程調整

・配布資料

平成30年度地域活動支援事業募集要項等一式

高田区意見書（写し）

ウィズじょうえつからのおたより

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【土屋委員】

4月25日の会議の際に、地域活動支援事業の提案は何件出ているか聞けるか。

【石野委員】

去年は情報提供があった。

【高宮会長】

中間報告はしてもらっている。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。